卒業論文

「ハウスヒストリー」から見た高齢者とその家族の関係

――住居に対する高齢女性の意味付与をめぐる語りから――

2013 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2018 年 1 月　提出

要約

本論文は、高齢者の意識と行動に影響を与える住居の意味について明らかにすることを目的としている。先行研究では、家族社会学、ハウジング研究、高齢者住居研究という 3 つの観点から住居について分析された研究を確認した。家族社会学では、住居が家族形態や近代家族規範と相互に影響しあっていることが分かった。そして、近代家族からポストモダン家族への変化を含め、家族の多様化に対応した住宅の必要性を主張している。住宅や住宅地を研究対象としている学問分野であるハウジング研究は、住宅供給・配分システムの視点から都市構造を議論してきたが、近年居住者の視点を取り入れる傾向を見せている。その中で、住居の意味に着目する研究があるが、居住者の主観的世界をとらえる方法論については、いまだ議論の余地がある。高齢者住居の変遷を見てみると、住居において福祉や介護の場としての役割が重要となっており、これに関して「居住福祉」という概念が提唱された。こうした先行研究や予備調査の結果から、住居に対する高齢者の意味付けに家族との関係性が影響しているのではないかと考えた。また、高齢者にとっての住居の意味を明らかにしたうえで、住居やそこにある思いなどを次世代と共有し、継承したり、断絶したりするプロセスにも注目した。住居の意味を明らかにするための方法論については様々な選択肢が考えられるが、本論文ではライフヒストリー法を手掛かりとして、「ハウスヒストリー法」という方法を試みることにした。「ハウスヒストリー法」とは、個人の過去から現在にいたるまでの生活の記録を、住居との関連を意識しつつ語ってもらうという方法である。具体的には、個人がこれまでに生活してきた住居を時系列的に挙げてもらい、各々の住居での生活や家族との関係について尋ねるという形である。「ハウスヒストリー法」をもとに、北九州市在住の 3 人の高齢女性に半構造化調査票を用いた聞き取り調査を行った。調査の結果から、大きく分けて 3 つの知見が得られた。第一に、高齢者にとっての住居の意味は 6 つに分類することができる。それらは、生きていくために必要な物理的なハコ、家族と安らぐ時間を与えてくれるもの、親や先祖から受け継いでいるもの、さまざまな思い出が保管されている場所、家族にとってルーツとなる場所、最期まで生き生きと暮らしていきたい場所である。第二に、対象者は現在の自宅が建設されている土地を、子供や孫に相続したいと考えている。現在の自宅が建設されている土地は対象者自身が購入したものではなく、義理の両親やその先代から受け継いできたものであるからだ。しかし、自宅そのものや自宅にあるものには、対象者の何らかの思いが込められているにも関わら

ず、対象者がその相続にこだわっていなかった。その理由としては、消費社会において住居やものが消耗品となったこと、家族のライフスタイルに合わせて住居を設計する考え方が浸透していることが挙げられる。第三に、調査対象者が現在の自宅を「自分の家である」と思う根拠として、夫の存在が挙げられた。つまり、夫が対象者と現在の自宅を結び付けている。対象者の夫は亡くなっていても、自宅が「自分の家である」という感覚を支え続けており、むしろ対象者は夫と死別したことで現在の自宅に「いなくてはならない」という義務感さえ持っている。

目次

1　はじめに・・1
1.1　研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.2　本論文の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2　先行研究・・・3
2.1　住まいという言葉について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2.2　住居についての社会学的研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2.2.1　ハウジング研究
2.2.2　住居の意味についての研究
2.2.3　家族社会学
2.3　高齢者の住居についての社会学的研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
2.3.1　高齢者の住宅に関する研究
2.3.2　居住福祉論
2.4　高齢者の住居の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
3　予備調査・・14
3.1　予備調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
3.2　予備調査の結果と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
3.2.1　住宅の歴史
3.2.2　現在の住宅についての感想
3.2.3　今後について
3.3　予備調査から本調査に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3.4　調査方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
4　本調査・・・20
4.1　調査対象者 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
4.1.1　調査の概要
4.1.2 調査の結果と分析
4.2　調査対象者 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
4.2.1　調査の概要
4.2.2　調査の結果と分析

4.3　調査対象者 3・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
4.3.1　調査の概要
4.3.2　調査の結果と分析
5　本調査考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
5.1　住居の意味づけについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
5.2　土地の相続について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
5.3　自宅、および庭やものの相続について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
5.4　「ここが自分の家である」という感覚について・・・・・・・・・・・・・・・・42
5.5　「ハウスヒストリー法」の有効性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46